

第5回企画委員会 議事録

日時 令和8年1月27日（火）13:00～14:00

場所 2号館5階 庁議室

出席者 委員5名、アドバイザー1名

■委員会からの意見について

事務局

- ・本日の進め方について説明

委員等

- ・資料に沿って説明

知事

- ・石川委員長はじめ企画委員会の皆様には、これまで3年半に渡り、万博事業の企画・検討に加えて、検証など多大なるご協力をいただき、改めて感謝申し上げます。
- ・兵庫県としては、万博事業により得られた成果と課題を分析し、今後の県政に、そして観光交流施策にも活かしていくために、検証を進めてきたところで、先ほど石川委員長から課題としてまとめた委員会の提言（案）を説明いただいた。
- ・万博事業の中心となったひょうごフィールドパビリオンの取組は、ゼロからのスタートであったが、3年半にわたり、県内各地の取組や地域資源を幅広く掘り起こしを進めることができた。最初は手を上げていただける方がいるか分からなかったが、結果的には現在、認定プログラムが270となっている。
- ・多くのプレイヤーが主体的、意欲的に活動いただき、淡路ではプレイヤー同士のネットワーク化が進み、他にも実際に来訪者が増えているというような成果もあり、フィールドパビリオンという多様なプログラムを横断的に施策展開することができた。
- ・万博会場やひょうご楽市楽座などの各拠点での取組についても、子どもたちをはじめとした県民のシビックライドの醸成や来訪者増加による交流人口の拡大につながったと考えている。
- ・兵庫県として様々な取組をしてきたが、全てが評価の中で、うまくいったというわけでもないが、総じてよかったものと感じている。今回の兵庫県の取組による経済波及効果が670億であること、何よりフィールドパビリオンに来訪いただいた方の満足度のが9割近くとなったことなど、期待以上の取組となった。
- ・これらの取組の成果を、これから万博のレガシーとして、新観光戦略の中間見直しの中でもひょうごフィールドパビリオンを明記するなど、今後につなげていきたい。2027年ワールドマスターズゲームズ関西や2030年の神戸空港国際定期便就航など観光交流のステージがさらに高まってくる。フィールドパビリオンを県民のみなさまに知っていただく取組を進めていきたい。今回得られた成果と課題を万博のレガシーして継承し、実効性のある、そして、躍動する兵庫の実現に向けた取組を更に進めていきたい。

■検証結果報告書について

委員等

- ・県内41市町とインフルエンサーが協調して取り組んだ成果を強調してはどうか。特に、動画の保存率が非常に高くなっていることが、行ってみようと思わせる効果につながっていると考える。

委員等

- ・フィールドパビリオンの今後の展開に向けて整理している点について、委員会としては公民連携及び全庁横断的にやってきたことを評価している。今後の展開についても部局横断の視点を明記してはどうか。

委員等

- ・アフター万博において、プレイヤーの士気が下がらないように、次の打ち出し方の工夫が必要。
- ・プレイヤーの自己肯定感を高めるために、サポート人材が磨き上げ研修に参加してもらうことが重要である。実施にあたっては、既存の県施策を活用して、サポート人材を発掘していくのがよい。
- ・まちの拠点づくり的な取組も重要である。小さなまちの拠点を多く作って10プレイヤーずつでもいなので、小さなイベントが10ヵ所くらいで開催できればプロモーションになるのではないか。

委員等

- ・今後、フィールドパビリオンを続けていくうえで、新しく応募しやすいなどの新陳代謝を促す仕組みづくりや、毎年何らかの動きを見せていくのも重要である。
- ・フィールドパビリオンの取組により、思いのある人が繋がっていくようになってほしい。
- ・県庁内でもフィールドパビリオンの仕事がしたいという職員が増えれば、県民もついてきてくれるだろう。

委員等

- ・補助金がない中でも、多くの方に手をあげていただいたことは評価できる。
- ・一方で、今後はプレイヤーの意欲を支える仕掛けが必要である。プレイヤーにとっても充実した活動となるよう支援いただきたい。

委員等

- ・全体版の検証の進め方の部分で、企画委員会からの評価だけではなく、アンケートやヒアリングなどの客観的なデータによる分析を行ったことを、もう少し強調すべきではないか。
- ・客観的な評価と主観的な評価が入り混じらないように、県としての結論の部分も記載できればよい。

以上